

## 唐沢寿明、白石加代子、勝村政信—— 蜷川作品の重要人物たちが創り上げる『コリオレイナス』

『コリオレイナス』の出演には、これまでにも蜷川作品の中で重要な役を演じ、  
蜷川ワールドを具現化してきた俳優たちが名を連ねている。

彼らのなにが蜷川を掻き立て、  
どんな『コリオレイナス』が生み出されようとしているのか。

唐沢寿明、白石加代子、勝村政信の3人の過去の蜷川作品から、  
その魅力と可能性を探ってみた。文:沢 美也子

「人間・マクベスがいる!」。2001年『マクベス』初演で、私は驚いた。それまでにいろいろな『マクベス』を見てきたが、こんなふうに血の通った生身の人間・マクベスに出会ったことはなかった。それほど唐沢寿明のマクベスは生き生きと、呼吸していたのである。「どこか遠い國の人」「昔のお話」というウソっぽさが微塵もない。同時代の、私たちと同じ人間が、そこにいた。だからこそ、マクベスの恐れや苦悩が、痛いほど伝わってきて胸をえぐる。

シェイクスピアの膨大で難しいセリフには、多くの俳優たちが負けてしまうことがよくある。感情がついていかないか、朗誦術に流れかかる、どちらにしても、失敗だ。しかし、唐沢(大竹しのぶもそうだが)は違っていた。シェイクスピアへの変な先入観もコンプレックスもなく、真直ぐに作品に向かっていったのだろう。情念に流れない、切り替えの早い演技で、マクベスに新たな命を吹き込んだのだ。

唐沢『マクベス』は蜷川幸雄にとっては大きな冒険だった。すでに評価の高い『NI NAGAWAマクベス』がありながら、全く違う『マクベス』に挑戦したのだから。自らの伝説を打ち壊していく蜷川の無謀な冒險を、唐沢は受けたち、見事なまでに成功させたのだ。

シェイクスピアの全作品を織り込むという、これまた無謀な井上ひさしの大作『天保十二年のシェイクスピア』を中心を担ったのも唐沢だ。リチャード三世と『オセロー』のイアーゴーをミックスしたような『佐渡の三世次』役。ダーティー・ヒーローの魅力を自在な演技で存分に見せてくれた。今度の『コリオレイナス』も民衆からは好かれていないいわばダーティー・ヒーロー。高潔であると同時に傲慢な男の悲劇を、唐沢がどう演じてくれるか期待はふくらむ。

『コリオレイナス』の、もう一人の重要人物、彼の母親役は白石加代子。白石も蜷川作品には欠かせない存在だ。『夏の夜の夢』の妖精の女王役、『ペリクリーズ』の語り手

## TOSHIAKI KARASAWA



『天保十二年のシェイクスピア』2005年、Bunkamura シアターコークーンにて。



『マクベス』2001年、彩の国さいたま芸術劇場での初演より。

## MASANOBU KATSUMURA



『グリークス』2000年、Bunkamura シアターコークーンにて。  
『白夜の女騎士』2006年、Bunkamura シアターコークーンにて。右が勝村政信。松本潤、鈴木杏と。

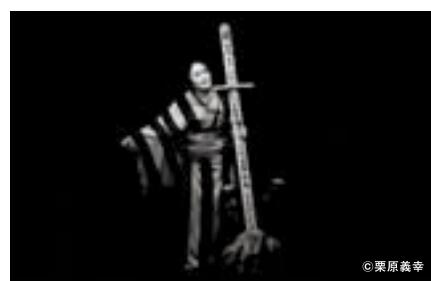
## KAYOKO SHIRAI



『白夜の女騎士』2006年、Bunkamura シアターコークーンにて。右が勝村政信。松本潤、鈴木杏と。

ガワー、女郎屋の女将、『天保十二年のシェイクスピア』の魔女など、多彩な作品に出演している。蜷川が寺山修司の世界に挑戦し、新たな境地を開くことになった『身毒丸』でも、義理の息子に恋する母親を、妖艶に、激しく演じて強い印象を残した。『グリークス』でのアテナ女神を老婆で演じていたのも忘がたい。人間以上の大きな存在や力を、体現する稀有な女優であり、蜷川の信頼も厚い。同じく、厚い信頼を得ているのが勝村政信。『マクベス』では、マクベスを最後に倒すマクダフを、狂気のごときハイ・テンションで演じた。『天保～』では、マクベスとオセローを兼ねた“幕兵衛”役で唐沢、白石と共に演じている。一番最近では『白夜の女騎士』で、志半ばで死んでいく孤独な青年、“その後の信長”を好演。『コリオレイナス』では、コリオレイナスの仇敵を演じる。

唐沢、白石、勝村という蜷川作品にとって、重要な俳優たちが、がっちり共演する『コリオレイナス』は、なんと贅沢な舞台だろう!



『身毒丸』1998年、彩の国さいたま芸術劇場での再演より。

## KAYOKO SHIRAI



『白夜の女騎士』2006年、Bunkamura シアターコークーンにて。右が勝村政信。松本潤、鈴木杏と。

『グリークス』2000年、Bunkamura シアターコークーンにて。

## 生き生きとした言葉のやりとりが見もの 『恋の骨折り損』 松岡和子

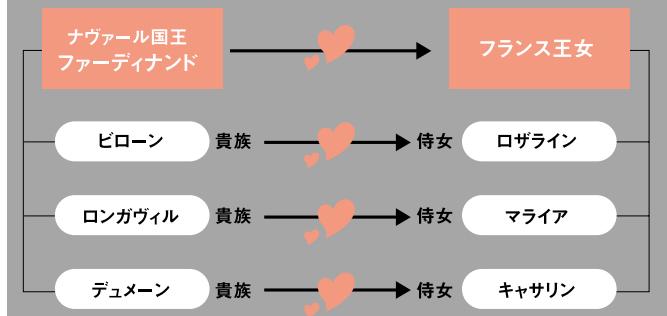
この作品はシェイクスピアの初期のものです。『間違いの喜劇』や『ロミオとジュリエット』『夏の夜の夢』などと近い時期に書かれています。この頃の特徴としては、とにかく言葉遊びが全開。言葉があふれるように出てきて、楽しくて楽しくてしょうがないという感じなんです。そういう面にプラスして、『恋の骨折り損』には知的なファクターが入っています。まず、ファーディナンド国王と3人の貴族たちは地位だけでなく言わば知的エリートだし、お相手となるフランス王女ら4人の女性たちも負けず劣らずの知性派ぞろい。シェイクスピアに限らず、同時代のほかの喜劇でもそういう要素があるんですが、ウイット・コンバット(機知合戦)が至るところで出てきて、相手の頭の良さをウイットのある言葉の応酬で確かめることをやる。これが面白いんですね、訳すほうは大変なんですが。いまひとつ特徴は、シンメトリカル=対称的な劇構造です。男性と女性、身分の上下など様々な立場からの様々な意見がウイットを持って闘わされる。それが見どころですね。

シェイクスピアが描く女性たちは、総じて悲劇では男性の支配下に置かれている。マクベス夫人などの例外はありますが、『ハムレット』で父や兄、そして恋人であるハムレットに翻弄されるオフィーリアはその典型です。それとは対照的に、喜劇に出てくる女性たちは男性と対等に渡り合う。『恋の骨折り損』では、対等どころか女性のほうが一枚上手ですから、それもまた面白い。シェイクスピアの時代には、女役も男性が演じていました。蜷川さん演出のオールメール・シリーズでも、多少行儀の悪いことも、きわどいところも男優だと洒落でできてしまうところがあり、喜劇の躍動感が高まりました。今回も男性が演じるところの、生き生きした頭の回転の速い女性たちが観られると思います。

## Story

ナヴァール王国の若き国王ファーディナンドは、彼の側近である3人の貴族、ビローンとロンガヴィル、デュメーンと共に、女性との交際を一切絶ち、3年間学業に専念する誓約を立てる。ところが、その直後、フランスの王女がお付きの美女3人、ロザライン、マライア、キャサリンを伴い、父王の名代としてナヴァール王国を訪ねてくる。この4人にどうやら一目ぼれしてしまったファーディナンドら4人。けれど、誓いを破るわけにもいかず、なんとか人知れず恋を成就させたい若者たちは、内緒でラブレターを書いたり、それがバレたりと四苦八苦。小姓や牧師らも交え、恋の駆け引き合戦を巻き起こすことになる。

『恋の骨折り損』人物関係図(略)



## Cast

**北村一輝**(きたむらかづき)  
ファーディナンド国王  
映画・ドラマを中心に独特の存在感のある演技で注目を集めている。最近の主な出演作にTVドラマ「大奥華の乱」(CX)「夜王」(TBS)「医龍」(CX)、映画『東京フレンズ The movie』『花田少年史 幽霊と秘密のトンネル』など。



**美暢雄**(きょうのぶお)  
フランス王女  
劇団「Studio Life」に所属し、舞台での活動の他、ドラマ・映画にも活躍の場を広げている。主なテレビ出演作にNHK朝の連続テレビ小説『わかば』など。出演映画『NANA2』が今冬公開される。



**窪塚俊介**(くぼつかじゅんすけ)  
デュメーン  
TVドラマ『ビーバップ・ハイスクール』(TBS)でデビュー以来、映画・ドラマ・舞台などで活躍中。主な出演作として、舞台『歩兵の本領』、映画『火火』『最終兵器彼女』『スケバン刑事 コードネーム=麻宮サキ』(9月30日公開予定)など。



**高橋洋**(たかはしよう)  
ビローン  
1998年『ロミオとジュリエット』に出演して以来、蜷川演出作品には欠かせない俳優の一人として活躍している。最近の舞台出演作に『天保十二年のシェイクスピア』『間違いの喜劇』『白夜の女騎士』『あれ彼女は娼婦』など。



**内田滋**(うちだしげ)  
ロザライン  
舞台『毛皮のマリー』でデビューして以来、舞台を中心に幅広く活動している。彩の国シェイクスピア・シリーズ第15弾『間違いの喜劇』では、エイドリアーナ役を好演した。最近の舞台出演作に『まとまったお金の唄』『魔界転生』など。



**月川悠貴**(つきかわゆうき)  
マライア  
数々の舞台・テレビの他、コンサートやディナーショーなど歌手としても活動している。また、蜷川演出作品の女役にはなくてはならない存在である。主な舞台出演作に『お氣に召すま』『近代能楽集』『間違いの喜劇』など。



**中村友也**(なかむらともや)  
キャサリン  
2005年ドラマデビューした注目の若手俳優。主な出演作としてTVドラマ『風のハルカ』(NHK)『神はサイコを扶らない』(NTV)、映画『七人の弔』『乱歩地獄』『俺は、君のためにこそ死にいく』(2007年公開予定)など。



**須賀貴匡**(すがたかまさ)  
ロンガヴィル  
映画・ドラマを中心に活躍する他、05年蜷川演出作品『KITCHEN』に出演するなど舞台にも活躍の場を広げている。最近の主な出演作としてTVドラマ『夜王』(TBS)、映画『ウォーターズ』『魅!クロマティ高校』など。



## 第17弾『恋の骨折り損』

[日時] 2007年3月16日(金)～3月31日(土)

[会場] 彩の国さいたま芸術劇場 大ホール

[演出] 蜷川幸雄 [作] W・シェイクスピア [翻訳] 松岡和子

[出演] 北村一輝、美暢雄、窪塚俊介、高橋洋、内田滋、月川悠貴、中村友也、須賀貴匡ほか

[チケット(税込)] S席9,000円 A席7,000円 B席5,000円 学生席2,000円

[発売日] 11月18日(土) ※『コリオレイナス』と2作品同時購入優先発売 9月30日(土)